

第10期千葉県生涯学習審議会第1回会議 及び

平成25年度第4回千葉県社会教育委員会議事録

平成26年1月29日(水)

午後2時00分から午後4時00分

千葉県庁中庁舎9階企画管理部会議室

出席委員(敬称略五十音順)

大久保良孝	黒澤真澄	黒田江美子	佐久間敦子	千藤尚志
高田悦子	立原充彦	田村悦智子	中澤潤	

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部長	重栖 聡司
千葉県教育庁教育振興部生涯学習課長	黒川 浩一
さわやかちば県民プラザ所長	森本 均
千葉県立中央図書館長	葉山 龍次郎
教育振興部生涯学習課	
主幹兼学校・家庭・地域連携室長	田村 正
学校・家庭・地域連携室 副主幹	加藤 雅博
主幹兼社会教育振興室長	奥山 恵子
社会教育振興室 副主幹	高橋 正名
同 副主幹	山崎 恵美子
同 社会教育主事	鶴岡 敦
同 社会教育主事	矢部 進
同 社会教育主事	小泉 憲治
同 社会教育主事	岡野 健一郎
同 社会教育主事	鈴木 圭一
同 社会教育主事	遠山 宗利
同 社会教育主事	小泉 弘代
東葛飾教育事務所 社会教育主事	赤澤 敏樹
東上総教育事務所 社会教育主事	小幡 亮二
南房総教育事務所 社会教育主事	小出 保夫

1 開 会

2 あいさつ

教育委員会あいさつ（重栖 教育振興部長）

3 委員、出席者紹介

4 議事

(1) ①会長（議長）及び副会長（副議長）等 選出

【事務局から選出方法について説明】

- ・生涯学習審議会の会長、社会教育委員会議の議長は兼任とする。
- ・生涯学習審議会の副会長、社会教育委員会議の副議長は兼任とする。
- ・副会長の人数は規則に定めがなく、副議長は規則で2名となっているので、副会長は副議長に合わせ、2名とする。
- ・会長・議長、副会長・副議長の兼任については、2年間継続とする。
- ・議長・副議長の任期は、1年となっているので、1年後に再度諮ることとする。

以上を決定した後、会長に 中澤委員、副会長に 黒田委員、佐久間委員を選出した。

②千葉県社会教育委員連絡協議会理事選出について

【事務局から委員の任務について説明】

千藤委員、田村委員を選出した。

(2) 「千葉県の生涯学習の推進、社会教育の振興について」

議 長 それでは、議事（2）「千葉県の生涯学習の推進、社会教育の振興について」はじめに①千葉県の社会教育施策の説明を事務局からお願いしたい。

事 務 局 【事務局より説明】

司 会 質問・意見はあるか。

委 員 「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」について聞き

たい。地域住民が参加する学校のミニ集会の中で、PTAはどのように関わっているか。1000か所行うのは大変なことだが、その取組の中で特徴的な共通課題が見えていれば教えて欲しい。

事務局 PTAとの関わりについては、高校では、開かれた学校づくり委員会の中で企画検討されている。その代表の中に、PTA、自治会長、OB会等の方々がいる。年によっても、学校の実態によっても、テーマによっても、集会の持ち方は変わってくるが、PTAは必ず関わっている。

小中学校では、多くの方に参加して欲しいので、授業参観や音楽集会等の行事と抱き合わせして開催しているところが多い。そういう中でPTAの方の参加を呼び掛けている。

特に、企画段階からPTAや地域と連携して開催しているところが現在は6割である。残りの4割について、連携した企画・運営ができるように呼びかけている。

ミニ集会は地域の声を聞く場・交流の場としているので、最近多いテーマは、防災教育、交通事故等についての話題等、学校の抱えている課題について話し合っている状況である。

委員 「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」を実践している高等学校の実態について報告したい。

高等学校の場合は、交通安全、不審者、通学路の安心安全、交通マナー等についてテーマにされていることが多い。

どの学校でもPTAが企画に関わるようになってきている。地域によっては、青少年健全育成の組織がしっかりしていて、例えば松戸市では、小・中・高校、民生委員、子ども会、PTA、町会長等、子ども達の教育に関わる人たちがほとんど集まっている。「1000か所ミニ集会」をきっかけに地域の連携が広がる効果もあると思う。学校が意図的に地域のセンターになっていけば、かなり有効に生涯学習・社会教育基盤を作っていくのではないか。

委員 家庭教育支援事業について聞きたい。以前家庭教育学級の委員をしたことがあったが、親たちに参加してもらいたいので、年5回ぐらい講座を開催していた。今は、回数も縮小されてき

ているように思う。様々な取組をされているが、県全体で、親たちがどのくらい参加しているのか。把握していたら教えて欲しい。

事務局 家庭教育学級や講座等は、市町村の事業で、県は主に市町村の支援を行っている。直接、講座等には関わっていないので県としては、参加者数等は把握できていない。市町村の担当者会議などで意見を聞くと、参加者が減少してきており、講座内容についても苦勞しているのでは、内容的に活用できるものはないかという声を聞いている。そのためにも「親の学びプログラム」等を作成して、市町村等で活用していただきたいと考えている。

委員 1 ページ目「放課後子ども教室推進事業」について、県内では何箇所教室があるのか。放課後子ども教室の運営の中では、どんな課題があるのか把握していたら教えて欲しい。

事務局 24年度は、23市町149教室、25年度は、25市町152教室。この事業は、市町が行っており、申請のあった市町村に補助をしている。

課題としては、放課後子ども教室の内容の充実があげられている。また、子ども達の安全の確保の問題があり、県独自で安全管理マニュアルやハンドブックを作成し、指導徹底を促したところでもある。県としては、市町村の担当者を対象に、子どもとの関わり方や内容の紹介を行う研修会を開催し、充実を図っている。

委員 5ページの防災キャンプ推進事業について聞きたい。これから防災がとても大事になってくる。参加人数が23名で少ないのではないかと感じた。参加し、体験したことを後でどのようにそれを伝えていくのかが大切だと考えるが、今後はどのように行っていくのか。防災は、地域が重要になってくるので、1000か所ミニ集会等に位置付けて地域と連携して取り組んでいくことが理想的なのではないか。

事務局 当初40名の参加を見込んでいたのだが、児童・生徒が忙し

くてなかなか定員には達しなかった。山武市教育委員会でも対象の全小中学生にチラシを配布するなど協力してもらったが、参加者は23名であった。

成果については、2月に実施する「防災キャンプフォーラム」で伝えたいと考えている。実施して得た成果・留意点等を報告書にまとめ、フォーラムの参加者に配る予定である。青少年教育振興機構のIKRの調査を、実施前・実施直後・実施一ヶ月後で行ったが、全体としては「生きる力」が伸びているという結果が出ている。

「ミニ集会等に位置付けて地域と連携して取り組んでいくことも理想的なのではないか」とのご提案だが、フォーラムの事務局の意見の中に盛り込んでいきたい。

委員 さわやかちば県民プラザの「ちばりすネット」は、アクセス数が多いようだが、具体的にはどのようなものがアクセスされているのか。

事務局 135万件のアクセスの内容については、分析して欲しいと「ちばりすネット」の担当者に先週、依頼したところである。

事務局 「ちばりすネット」は、学習機会情報で、どういうところでのどのような講座やイベントが開催されているかや、講師の情報を登録して紹介したり、団体やサークル等の情報を提供したりしている。その中でアクセス数が多いのは、講師の情報となっている。ただ、アクセスして、その後どのように活用しているかまでは把握できていない。講師情報についての問い合わせは数多くきている。市町村の情報も含めて一括して情報提供している。

委員 2ページ家庭教育支援事業の中の2 家庭教育支援講座の企業等というのは、企業とタイアップした事業なのか。

また、社会教育施策は、全体を通して住民参加を大事にして進めていると感じる。今の時代にマッチしている考え方だと思うので、確認の意味で教えて欲しい。

事務局 家庭教育支援講座の企業等への支援とは、企業に勤めている

保護者及び家庭に対して、県から講師を派遣し、企業に出向いて、子どものしつけや子育てなどの実践例を交えて家庭教育支援の研修を開催しているものである。このような企業研修をもっと開拓したいと考えている。

また、もう一つのご質問については、社会教育自体が、新しい公共という考え方もあり、役所から一方的に行うよりも、地域住民の参画を得るといった視点が随所に出てきている。

議 長 他に何かあるか。
②千葉県の子社会教育施設について事務局から説明をお願いしたい。

事 務 局 【 事務局より説明 】

議 長 さわやかちば県民プラザの在り方についての検討は、今年度からとのことだが、スケジュールはあるか。

事 務 局 次回までにスケジュール等が示せるよう調整したい。

(3) 「千葉県子供の読書活動推進計画（第三次）」の策定について

議 長 議事（3）千葉県子供の読書活動推進計画（第三次）の策定について事務局から説明をお願いしたい。

【 事務局より説明 】

議 長 それでは、事務局から提案のあった「千葉県子供の読書活動推進部会」の設置についてだが「千葉県子供の読書活動推進計画（第三次）」の策定については、部会を設置して、協議・検討していただく方向で御承認いただけるか。よろしいか。

(委員) ※委員に諮り承認を得る。

委 員 進捗状況について聞きたい。県は、環境整備を進めていくのだと思うが、環境整備はすすんでいるが、公立図書館等の児童書の貸出冊数は減少し、不読率も高いのは、どこに問題がある

のか。把握していれば教えて欲しい。

事務局 市町村の詳しい状況等についての具体的な数字は、持ち合わせていない。不読率について考えると、今はスマートフォンや携帯電話の普及等が大きく影響していると推測している。また、貸出冊数だが、授業時数も増えて子ども達の帰りも遅くなり、放課後に図書館に足を運ぶ時間が少なくなったということも考えられる。データやアンケート等の裏付けがあるわけではないので、その点も部会等でアンケート調査の必要が出てきたら調査も考えていきたい。

議長 公立図書館の貸出数なので、学校図書館の貸出数は変わっているのか、いないのか。実質的に、子どもの数も減ってきているので、貸出冊数が少し減るのは仕方ないが、これほど減るのは、子どもの人数の減少だけとは言えないのではないか。今後考えていく必要がある。

委員 今の図書館の現状をお話ししたい。公立図書館と学校との連携が非常に深まっている。子どもたちは、忙しかったり、不審者が出たり、放射能の問題によってなかなか一人で外に出られず、図書館に来ることが難しくなっている。平日の図書館の児童室は閑散としている。土日も午後に保護者と来ている。忙しく、危ない現状がある。白井市では、学校との連携が進み、公立図書館からの学校貸出が飛躍的に伸びている。公立図書館からの学校貸出がこの数字に入っているのかわからないが、入っていないとがたと落ちてしまう。白井市の場合は、学校図書館司書の活躍、担任の努力、朝の読書でのクラスごとの団体貸出などにより、学校図書館の充実が図られている。公立図書館の貸出が減っても、読書率が減るということはないのではないか。先生方や学校図書館司書教諭も公立図書館もバックアップして頑張っている。

事務局 確認したところ、貸出冊数の中に、公立図書館からの学校貸出については含まれていない。

議長 今のように詳しい情報があれば、また報告をお願いしたい。

部会設置の承認がされたので、生涯学習審議会運営規則の第4条では部会に属すべき委員は、会長が指名することになっている。事務局で案があればお願いしたい。

事務局 【事務局案】大久保委員 黒澤委員、黒田委員、高田委員、立原委員、中澤委員 の6名

議長 事務局案の6人の方々を指名させていただきたいがよろしいか。

(委員) ※委員に諮り承認を得る。

議長 私も含めた6名。黒田委員、黒澤委員、高田委員、立原委員、大久保委員よろしくお願いしたい。

なお、生涯学習審議会運営規則の第4条の2で「部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選によってこれを定める。」とあることから、部会の委員の方々は、本会議後、この場に残ってすみやかに部会長の選出をしたい。

その他の議題はあるか。

事務局 その他は特にありません。

議長 以上で議事を終了し、議長の任を解かせていただく。

5 諸連絡 今後の予定

この会議は、年3回を予定しており、次回は6月頃の開催予定であり、その場で「26年度の生涯学習課の事業について」、「社会教育関係団体への補助金交付について」等の御意見をいただく予定である。

6 閉会